

週刊センターニュース No.97

第97号(2006年2月20日) 毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm



第3回大学教育セミナーのご案内

日時 平成18年2月28日(火) 13:00~17:30 (受付開始12時30分)

会場 金沢大学サテライト・プラザ(金沢市西町教育研修館3階 北陸鉄道バス
「武蔵ヶ辻」下車徒歩5分)

主催 金沢大学大学教育開発・支援センター

テーマ 専門職大学院と教学改革 知的財産系専門職大学院を手がかりに -

趣旨 本学は中期計画において「専門職大学院として、法科大学院の設置に続き、技術経営(MOT)コース、ビジネススクール(MBA)等の設置を検討する」と謳っている。当センターは、昨年3月、日弁連法務研究財団の後援を得てコンファレンス「専門職大学院の将来と認証評価 - 法科大学院を手がかりに - 」(主催:金沢大学)を企画、実施した。今日、専門職大学院は、学生募集戦略の視点から重要であるだけでなく、いかなる教員組織により「理論と実務の架橋」を教育の場でどう実現していくか、当該専門分野のプロフェッションの形成にどう貢献できるのかということなどが専門職大学院固有の喫緊の課題となっている。さらに、知的財産の活用そのものは、大学運営にあって、地域貢献の面を含め、極めて重要な意義をもつものであることはいうまでもない。今回は当センター主催のセミナーとして、教学改革にもつなげる技術経営・知的財産系の専門職大学院のあり方について、石井正氏(大阪工業大学大学院知的財産研究科研究科長)をお迎えし、上記のような諸課題をも含め、より深く議論する場を設定することとする。

内容

開会 13:00

開会挨拶 橋本 哲哉(金沢大学理事(情報担当)・副学長)

第一部 基調講演 13:10~14:00

「知的財産人材の育成と大学の役割 - 大阪工大の経験と今後 - 」

石井 正(大阪工業大学大学院知的財産研究科研究科長、元特許庁審判部長、特許技監)

第二部 報告 14:10~15:30

報告 1)「金沢大学のMOT塾の現状」

瀬領 浩一(金沢大学教授 共同研究センター)

2)「大学の知財活動の意義と金沢大学における現状」

吉國 信雄(金沢大学教授 知的財産本部長)

総括報告 大友 信秀(金沢大学助教授 法学部)

第三部 シンポジウム 15:40~17:20

シンポジスト 石井 正、瀬領 浩一、吉國 信雄 司会 大友 信秀

閉会挨拶 青野 透(金沢大学教授 大学教育開発・支援センター長)

閉会 17:30

参加申込は、西山(nnishiya@ge.kanazawa-u.ac.jp)までメールにてお願いいたします。

(以下の第106回、第107回の共同学習会の会場、時間は、通常と異なりますので、ご注意ください。)

第106回共同学習会のご案内

日時 2006年2月23日(木) 14:40 - 16:10

場所 総合教育棟1階小会議室

タイトル 大学・社会生活論の科目開発(3) - 留学論

報告者 斉木麻利子(留学生センター)

趣旨 来年度からの教養カリキュラム刷新に合わせて新設される

導入科目「大学・社会生活論」の授業企画が現在進められている。

今回の共同学習会では、「大学・社会生活論」の授業項目の一つ「留学論」について、授業企画担当者に授業案を提示していただく。各学部の教養カリキュラム担当者など多数の参加をお願いしたい。

第107回共同学習会のご案内

日時 2006年3月3日(金) 15:00 - 16:30

場所 総合教育棟1階 小会議室

タイトル 大学・社会生活論の科目開発(4) - 図書館利用の基本・応用・実際 -

報告者 村田勝俊(情報部図書館サービス課)

趣旨 新年度から必修科目として始まる「大学・社会生活論」では、図書館利用について、全員が学ぶことになる。これまで開講されてきた総合科目「大学図書館への招待」のなかで行っていた内容をもとに、詳細な図書館オリエンテーションを行い、図書館を使って何ができるかを理解してもらうことが狙いである。本学の大学憲章は、教育理念として「学生の自学自習を基本とする」と謳っている。全ての学生が1年次から、図書館を充分に活用する習慣を身に付けることは、この理念の具体化のために必要不可欠の前提となる。図書館についての授業に関し種々の考え・要望をお持ちの教職員・学生・院生の参加を強く期待する。

パデュー大学、ワシントン大学工学部のカリキュラム

当センターでは、6つの研究プロジェクトがこの1月に始まった。その一つ「学士課程教育再編プロジェクト」のメンバーとして東京農工大学大学教育センターの吉永契一郎先生に加わっていただいた。1月13日、パデュー大学工学部とワシントン大学工学部についてのご自身の調査結果を共同学習会で紹介していただいたので、そのごく一部の概要を述べたい。

専門性が高いと言われている工学部においても、学科ごとの専門科目とともに学部共通科目の比重が高く、工学全般の知識習得が重視されている。専攻分野に特化した専門科目は主に大学院で提供されている。例えば工学部の電気工学科から大学院では機械工学に進学したり、あるいは工学部から医学部、法学部への進学も多く、学部での専攻にとらわれず進学先は多岐に渡っている。昨年1月に出された中教審答申「我が国の高等教育の将来像」において、学士課程教育の役割が教養教育、専門基礎教育へと移行することが予想されているが、アメリカの学部教育はまさにその形態をとっている。

パデュー大学、ワシントン大学いずれにおいても、教養科目と専門科目の区別はなく、他学部の(専門)科目を工学部の教養科目として履修させている。パデュー大学では18単位、ワシントン大学では36単位(人文学24単位、コミュニケーション12単位)を教養科目としてとらせる。(パデュー大学では1コマは2~4単位、ワシントン大学では1コマは3~5単位) 専門基礎は、パデュー大学が最低32単位、ワシントン大学では数学18単位、自然科学20~25単位となっている。この専門基礎と専門科目の担当教員は、両者で完全に分けられている。専門科目はパデュー大学が74単位以上、ワシントン大学が95単位となっているが、そのうち工学部の共通科目の占める割合が高く、機械工学科ではパデュー大学で30単位、ワシントン大学で50単位が学部共通科目(一部選択)となっており、大学院進学時における専攻変更を可能にしている。卒業研究は、日本と異なり選択制となっており、特定の研究室に所属することなく、自分自身で設定したテーマについて指導教員を自ら選んで研究を進める。そのため、研究室の設備ではなく、充実した共通設備を使用して研究を行う。高度専門教育は大学院において行われることになる。

吉永先生の講演では、2大学の工学部についてきわめて明快に解説していただき、貴重なアメリカ州立大学のカリキュラムに関する知見を得ることができた。

(大学教育研究開発部門 西山宣昭)